2018.12.13~12.19

山本 竜太郎

モンダドーリ出版社本社ビル(Palazzo Mondadori)



ミラノ研修として、最初に向かったのが、モンダドーリ出版社の本社ビルだ。モンダドーリ社とはイタリアの老舗出版社である。1968 年、社長のジョルジュ・モンド―リがブラジリアの外務省 イタマラチ宮(Itamaraty Palace) を見て、ブラジル生まれのオスカー・ニーマイヤーに設計を依頼し、1975 年に完成した。そして 1987 年には近代都市では初の世界遺産に登録されている。

外観はコンクリートの特性を活かした形をしており、異なる間隔の列柱とアーチで取り囲まれている。ここにオフィスや編集部が入っている。「あたかも建物から液体が流出しているようにみえるつくり」と言われている建物だ。周囲は広大な緑地に囲まれており、記念碑的に孤立してそびえ立っている。造形的なデザインとガラス張りのオフィス部分の対比が綺麗だと感じられた。遠くから建物は見えていているのに、違和感がないほど、周囲に溶け込んだ印象だった。ここには内部を見学できるツアーもあるらしいので、間近でみるだけでなく、内部もいつか見てみたいと思った。

今回は敷地外部からの見学のため見られなかったが、池に囲まれており、正面の水に映っている姿が、印象深い景色を作っているみたいだ。敷地内には他に2つの建物で構成されていて、大きな平行六面体部分の周りに、カーブの多い低層棟が2棟隣接している。低層棟の一つにはレストラン、バール、ショップがあり、もう一つの低層棟には編集部、資料センター、オーディトリウムなどが入っている。これらの建物も、ニーマイヤー自身が語る「自由な曲線」を多用して設計を行っており、ブラジリアのどの建築物にも、同じ特徴がみられるようだ。

プラダ財団ミラノ(Fondanzione Prada Milano)



1990年代に設立されたプラダ財団の美術館であり、ミラノに 2015年にオープンした。プラダは、今回の研修で訪れたヴィットーリオ・エマヌエーレ 2世のガッレリアに本社を置く。

この美術館はレム・コールハース率いる建築事務所 OMA による設計だ。1910 年代に建てられた蒸留所を転換して、7 つの既存建物に3 つの新しい建築を組み合わせている。「保存」と「創造」の共存・相互作用がコンセプトで、新しい建物が既存の建物と連結した構造になっている。



新しい建物は形態、素材、カラーそれぞれがバラバラで、既存の建築物も合わせて「パッチワーク」のようだと表現されている。多種多様な素材の組み合わせに驚かされると同時に、表情豊かな風景が目に焼き付き、今でも鮮明に思い出される。なかでもひときわ目立つ金色に塗られた建物が、より周囲を際立たせて印象的だった。

また展示空間では様々なアートを発信している。研修で訪れた際にも、展覧会を行っており、斬新な展示だった。米国人映画監督であるウェス・アンダーソンが、古いミラノのカフェの雰囲気を再現してつくったバールが内部にある。他とは全く異なったテイストであり、現代的なデザインの中に、ヴォールト天井やアーチ型開口部などがあり、ミラノの街に見られる伝統的な様式を踏襲している。



足を一歩踏み入れるたびに、刺激を感じさせられ、濃密な時間に感じられる美術館である。それでも、 それぞれの建物が持つ特色がしっかりと際立っており、まとまった印象を受ける不思議な空間であった。

ガエ・アウレンティ広場(Piazza Gare Aulenti)

ポルタ・ガリバルディ(Milano Porta Garibaldi)駅前の再開発で人工地盤に作られた広場で、地下には大手スーパーがあり、露店が出たりして多くの人でにぎわっている。また円形広場の中心には噴水があり、夏場は子供たちが水を浴びながら遊んでいるらしい。

この地域は、保守的で変わらないといわれているイタリアの都市空間の中で、2015 年開催の「ミラノEXP02015」をきっかけに変貌しつつある一つだ。デザインの都ミラノも都市空間自体はほとんど変わらないが、ここでは高層ビルや現代建築に囲まれている。円形広場を囲むように、イタリアを代表する銀行「ウニクレジト UNICREDIT」の、円弧型でミラーコートに覆われている。イタリアで最も高い高層ビルである。また近くにボスコ・ヴェルティカーレ/垂直の森(Bosco Verticale)と言う高層マンションも見える。この建物は2014年に竣工し、不規則に配置されたテラスに木々が生い茂り、まるで巨大な森のようにみえるタワーマンションである。2014年の建築デザインの国際アワードも受賞している。他にもイタリア一高いマンションとしてソラリアタワーという高級マンションも近くにある。

広場の名前にもなっているガエ・アウレンティは、現代イタリアを代表する女性建築家&デザイナーである。作品のうち有名なものには、パリのオルセー美術、ポンピドゥー・センターの中の国立近代美術館などがある。2012年に逝去したため彼女を記念して同広場の名前となった。ミラノの他の都市に比べると、近代的な建物が周囲に沢山建てられており、新しい雰囲気を感じられたのが印象的だった場所だ。













ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世のガッレリア(Galleria Vittorio Emanuele II)

ここはドゥオーモ広場のすぐ北に位置し、スカラ広場へ通じているアーケードだ。イタリア王国の初代国王ヴィットーリオ・エマヌエーレ 2 世にちなんで名づけられている。イタリアの建築家ジュゼッペ・メンゴーニが 1861 年に設計を行い、1865 年から 1877 年の間に建設された。「ガッレリア」 の意味は元々イタリア語で、英語の 「Gallery」 に相当する言葉である。「画廊」と訳される語源のように、きめ細かい装飾と柔らかな絵画があり、「絵を掲げた廊下」のような印象だった。

2 つの交差したアーケードに覆われており、それぞれガラスの屋根と鉄製のアーチに覆われている。石造りの伝統工法を基盤にガラス、鉄、石が組み合わさった融合美は、ミラノの建築技術の終結と呼べる傑作と称されている。またこのガッレリアは巨大ガラス張りのショッピングアーケードの原型になったと言われている。

中央の十字路部分はガラス製のドームで覆われている。中央広場の床面には、イタリア王国の紋章などが描かれている。また天井付近のフレスコ画はそれぞれヨーロッパ、アフリカ、アジア、アメリカを表しており、天井のガラスを通して入る自然光が、フレスコ画や床のモザイク画を優美に浮き立たせる。









4 ドーる店プンシ他ェいが建すたいま舗ラなョレバ。の一ら書品グヴフド、居品ががのでいたがりたいがありまれが、のでは、のでは、かい高ランスープ。のから、から、から、のでは、から、のでは、から、のでは、から、のでは、から、のでは、から、のでは、から、のでは、いいので

「プラダ」の本店がガッレリア中心にある。ミラノでも最も豪華な部屋と設備を有しているホテルもある。 創業100年以上のカフェもあり、雰囲気を壊さないよう各ショップの外観が工夫されている。日本だと 各店舗を目立たせることを優先しているが、ここは人々がアーケードを守ろうとしているように感じた。 人の感情を動かせるほどという意味で、建物自体が芸術作品という言葉がピッタリなように思えた。